

## 吃音… 一人で悩まないで

年 組 番 名前

言葉がつかえたり出にくかったりする「吃音」当事者の皆川裕己さんは、ウェブサイト「吃音ラボ」を運営しています。皆川さんは、どんな思いでウェブサイトを開設したのか。誰もが暮らしやすい社会にするにはどうしたらいいのか、記事を読んでみましょう。

- ①「吃音ラボ」は、何を紹介するウェブサイトですか。リード（第一段落）から書きましょう。
- ②皆川さんは小学生の時、「ごまかしつつうまくやっていた」と話しています。具体的に、どんなことをしていましたか。
- ③皆川さんは、どんなことをしたいと考えて、2018年に「吃音ラボ」を立ち上げましたか。
- ④皆川さんは小学生の時、担任教師に話し方の悩みを打ち明けたことがあります。その体験から、どうなっていれば「もっと生活しやすかった」と思っていますか。
- ⑤吃音がある人を含め誰もが暮らしやすい社会にするために、あなたはどんなことができますか。自分の考えを書き、友達と話し合ってみましょう。

# 吃音… 一人で悩まないで

松本の当事者・皆川さん ウェブサイトで発信



「吃音ラボ」を運営する皆川さん

言葉がつかえたり出にくかったりする「吃音<sup>きうおん</sup>」当事者の皆川裕己さん(33)＝松本市＝は、同じ吃音がある幅広い立場や年代の人を紹介するウェブサイト「吃音ラボ」を運営している。周りと話し方が違うと幼い頃から感じ、孤独を感じがちな同じ悩みを抱える人に、一人じゃないと伝えたい。当事者が少しでも暮らしやすくなるよう、地元の小中学校で吃音について伝える活動にも力を入れている。

(宮沢 久記)

## 小中学校で症状伝える活動も

## 正しく理解して「味方になって」

「み、み、み、み、皆川裕己といいます」。7月中旬、松本市山辺小学校の体育館。集まった児童への自己紹介で、語頭の音を繰り返す「連発」が交じった。「おはよう」のあいさつや国語の音読がう

まくでえず、発音が不安で発表に後ろ向きだった小学生の頃を振り返った。

千葉県茂原市出身。幼稚園の誕生日会で、名前をうまく発音できなかったことを覚えていた。小学校では音読箇所

が分からないふりをして発音する間を稼いだり、授業で解答が分かっても「分かりません」と答えたり。話し方をからかわれたことはなく、「ごまかしつつうまくやってきた」という。当時は、吃音

という言葉も、症状についても知らなかった。

◇ ◇

中学高校でも状況は変わらなかったが、音響系の専門学校で学んでいた二十歳の頃、壁に阻まれた。資格取得に必要な実技試験で試験官と話さないといけない。何とかしないと…。インターネット上で「言葉」「詰まる」と検索すると「吃音」とヒットした。

吃音は2～5歳ごろに約100人に5人の割合で発症し、うち1人程度は大人になっても症状が続くとされる。確立された手法はないという治療の考え方などを言語聴覚士に取材して掲載するなど、信頼性の高い情報発信にこだわる。

子育てに良い環境を求めて約3年前に移住した県内で、子どもたちへの啓発を始めた。飲食店での注文、通院で症状を伝える際、美容室での雑談など、日常で他人と話す場面は避けられない。「今も日々、怖い」と打ち明けるが、山辺小の児童にも「吃音のある人の味方になってほしい」と伝えた。当事者が抱える生きづらさを少しでも減らせるよう、これからも呼び掛けを続けていく。

なぜ周りと同じように話せないのか、自分だけなのか…。物心ついた頃から疑問を抱えてきただけに「自分と同じような人がいると知ってうれしかった」。

自身が小学生の時、家庭訪問に来た担任教師に話し方の悩みを打ち明けたことがある。だが、返ってきたのは「大丈夫、気にならない」。相談しても無駄だと諦め、「どうもならないじゃない。話し方がばれないようにしよう」とし

た。SNSを通じて知り合った当事者に会ったり、自助グループの活動に参加したりして悩みを共有した。

社会で前向きに生きる当事者の姿を伝え、吃音への理解を深めて悩む人の背中を押したい。2018年に「吃音ラボ」を立ち上げた。自助グループで知り合ったりサイトで募ったりして、若者から定年退職した人まで約30人にインタビュー。会社の営業マンや小説家、看護師らさまざまな当事者の体験談を、了解を得て顔出しで動画配信している。

自身は小学生の時、家庭訪問に来た担任教師に話し方の悩みを打ち明けたことがある。だが、返ってきたのは「大丈夫、気にならない」。相談しても無駄だと諦め、「どうもならないじゃない。話し方がばれないようにしよう」とし

## 吃音… 一人で悩まないで

### 解答例

年 組 番 名前

言葉がつかえたり出にくかったりする「吃音」当事者の皆川裕己さんは、ウェブサイト「吃音ラボ」を運営しています。皆川さんは、どんな思いでウェブサイトを開設したのか。誰もが暮らしやすい社会にするにはどうしたらいいのか、記事を読んでみましょう。

①「吃音ラボ」は、何を紹介するウェブサイトですか。リード（第一段落）から書きましょう。

【解答】 同じ吃音がある幅広い立場や年代の人

②皆川さんは小学生の時、「ごまかしつつうまくやっていた」と話しています。具体的に、どんなことをしていましたか。

【解答】 音読箇所が分からないふりをして発音する間を稼いだり、授業で解答が分かっても「分かりません」と答えたりしていた

③皆川さんは、どんなことをしたいと考えて、2018年に「吃音ラボ」を立ち上げましたか。

【解答】 社会で前向きに生きる当事者の姿を伝え、吃音への理解を深めて悩む人の背中を押したい

④皆川さんは小学生の時、担任教師に話し方の悩みを打ち明けたことがあります。その体験から、どうなっていれば「もっと生活しやすかった」と思っていますか。

【解答】 周りが吃音を正しく知っていれば

⑤吃音がある人を含め誰もが暮らしやすい社会にするために、あなたはどんなことができますか。自分の考えを書き、友達と話し合ってみましょう。

【解答】 略